

令和7年度
協働のまちづくりチャレンジ
事業成果発表会
2026.02.21 Sat

**「避難所シミュレーション0101」できっかけづくり！
町会のコミュニティを活性化する試み。**



1. 私たちの理（ことわり）

「避難所シミュレーション0101」できっかけづくり！
町会のコミュニティを活性化する試み。

資料
P01

理（ことわり＝理念）

- ① ワークライフバランスの普及
- ② 親子から孫までに笑顔のリレー
- ③ 会員のスキルアップ
- ④ ひとづくり・まちづくりの種まき



- 設立2015年4月
- 会員数 30名

今年度、設立10年を迎えました。周年事業として、福井県の富永先生を招き、「今さら聞けないファシリテーション講座」を実施し、**原点に還りました。**

今年度のキャッチフレーズは、「**楽しく・仲良く・やさしく**」で、全員がこのキャッチのもと、チームワークを発揮しながら事業を実施しました。

今回のチャレンジ事業は、左記の④「ひとづくり・まちづくり」に関連して進めています。

2.採択事業の概要・ねらい

「避難所シミュレーション0101」できっかけづくり！
町会のコミュニティを活性化する試み。

資料
P02

事業概要

本事業では、カードゲーム形式の「避難所シミュレーション0101」を通して、災害時の避難所運営や助け合いを体験的に学ぶ場をつくりました。

参加者が立場の違う役割を体験する。「災害が起きたら、何が起こるのか」、「自分に何ができるのか」を、グループで話し合い、自然に考えるきっかけを提供しました。

ねらい

- ①防災を 知識だけではなく、**行動につなげる**こと。
- ②助け合いの大切さを **体験で実感**すること。
- ③地域の課題に気づき、次の一歩を考える。

目指したこと

災害時に、「誰かまかせ」ではなく、「自分も関わらないと」そんな気持ちが地域に広がる＝コミュニティを目指しました。



3.実施の成果01（回数と参加者）

「避難所シミュレーション0101」できっかけづくり！
町会のコミュニティを活性化する試み。

資料
P03

◆回数→日付→実施名→（参加者数）

①4/22 県立看護大学・3/4年 課題実習（15）

②5/25 福井市内・某企業（15）

③6/7 NPO法人 シンママ応援団（10）

◆ここまではテストラン。④以降は本格始動。

④6/11 県立看護大学・フィールドワーク（15）

⑤6/15 浅野町婦人防火クラブ防災研修（30）

⑥6/28 WLB内・サブFA研修を兼ねた実施（10）

⑦7/3 清川町会と高岡中・合同防災研修（30）

⑧8/10 並木町会防災セミナー・AED紹介（30）

⑨10/5 菊川地区町連 防災フェスティバル（30）

⑩10/25 押野地区町連 防災セミナー（40）

⑪11/30 諸江地区町連・地区防災研修（40）

⑫12/6 サブFA確認会議・救命救急訓練（15）

◆ここからは予定です。（2026.2月2日現在）

⑬2/14 新神田少連・子ども防災研修会（30）

⑭2-3月 並木町会防災セミナー2回目（30）

⑮2-3月 北陸朝日放送・社内研修（人数未定）

●のべ実施回数 15回

●人数合計 約340名



3.実施の成果01関連 (パブリシティ)

「避難所シミュレーション0101」できっかけづくり！
町会のコミュニティを活性化する試み。

資料
P04

避難所の問題 クリアせよ

並木町住民がカードゲーム

NPO製作 つながり深める機会に

もし避難所生活を強いられたら、あなたならどう過ごしますかー。地震や記録的豪雨など、近年は相次いで自然災害に見舞われている県内。万一の事態に備え、カードゲームで避難所での生活を具体的に考えてもらう防災セミナーが10日、金沢市兼六元町の市中央消防署味噌蔵出張所であり、並木町の住民ら約30人が防災意識を高めた。(酒井翔平)



7月の休日に震度6強の地震が発生し、学校の校舎と体育館が避難所になったと想定。参加者は避難所の運営スタッフの立場になって、救援物資の置き場所や設備の利用ルールを決めて

避難所生活について意見を交わす参加者たち
＝金沢市兼六元町で

いった。「仮設トイレが4台きまらず。設置場所とルールを考えて」「視覚障害のある人が避難してきました。何に配慮する」。具体的な状況が記された課題カードが提

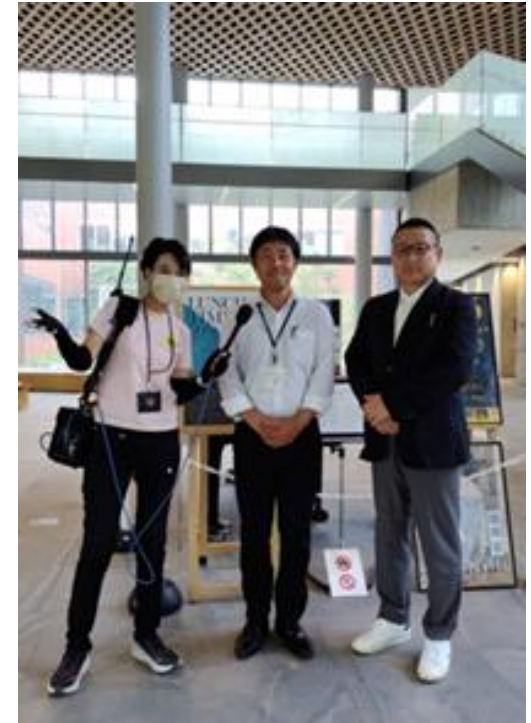
示されるたびに、参加者は避難所の平面図に目を落としながら「男女別にトイレを分けては」「出入り口に近い場所でも過ごしてもらったら」と積極的に意見を交わした。

用いられた「避難所シミュレーション0101」を製作したのは、NPO法人・ワークライフバランス北陸(金沢市北安江)。きっかけは昨年元日に発生した能登半島地震だ。能登に住むメンバーが被災し、法人のオフィスにも被害が出た。

「普段から備える意識を持つことが重要。あの日、恐怖を感じた県民だからこそ伝えられることがある」と丸谷めぐみ理事長。もしもの時のために、地域コミュニティを深めるきっかけになってほしいという思いもある。今年4月に完成したカードゲームは、防災セミナーや学校の授業などで活用されている。今回セミナーを開催した並木町の町会「並木民主会」の柴田直樹会長(62)も「学んだことを多くの人に共有し、災害に強い町をつくらせていけば」と力を込めた。

北陸中日新聞 2025.08.11 (月) 付朝刊 金沢版トップ掲載

左から
MROレポーター丸一さん
危機管理課・増永さん
並木町会長・柴田さん



◆新聞取材・ラジオ中継◆

- ・北陸中日新聞8/11付朝刊・金沢版トップ掲載
- ・北國新聞8/11付朝刊・社会1面掲載
- ・8/1 生中継MROあさダッシュ内/街中レポート枠7分
- ・11/25生中継MROあさダッシュ内/街中レポート枠10分

3.実施の成果02（効果・反省点など）

「避難所シミュレーション0101」できっかけづくり！
町会のコミュニティを活性化する試み。

資料
P05

<実施効果>

- ・災害時の避難所や助け合いについて、自分ごととして考えるきっかけになりました。
- ・参加者同士の意見交換により、地域での課題や気づきが共有されました。それが新しい**コミュニティとしての「芽」**を出しました。

<良かった点>

- ・ゲーム形式により、気軽に、楽しみながら参加でき、話しやすい雰囲気が生まれました。**従来型の堅いイメージを払しょく。**
- ・年代や立場の違う人が一緒に考えることで、多様な視点が得られました。

<課題・反省点>

- ・時間の制約により、十分な振り返りの時間を取れなかった回がありました。
- ・気づきを、次の行動につなげるための継続的な場づくりが課題として残りました。



4.金沢市の各課との協働について

「避難所シミュレーション0101」できっかけづくり！
町会のコミュニティを活性化する試み。

資料
P06

①危機管理課の担当者と相談しながら事業を進めることで、地域の実情を踏まえ役割を分担し、実施することができました。

②また、事業の進め方や伝え方について助言をいただき、活動をより現実的な取組みにつなげることができました。

③市民協働推進課のみなさんや、コーディネーターさんにも都度、相談をさせていただきました。方向性をアドバイスしていただき、現場で感じたことについてフィードバックをしていただきました。



5. 今後の展望

「避難所シミュレーション0101」できっかけづくり！
町会のコミュニティを活性化する試み。

資料
P07

◆今回の取組みで得られた気づきや課題を整理し、地域での防災活動や次の取組みに生かしていきます。自助→共助→公助という（優先順）を啓発します。

◆市・地域・企業が関わり合いながら、**助け合いが続く仕組みづくり**を進めていき、「地区防災計画」の基盤を創ろうと思います。

◆自主防災会や防災士の参加はありますが、一般市民の参加・子供たち・外国人などの参加を呼びかけます。この取組みをすることで「**インクルーシブ防災**」の第一歩として、来年度に向け踏み出します。





近所の人に「お願い！」と、とっさに言えますか？

防災は、防災グッズや防災士など、特定のモノや人だけで成り立ちません。

防災は、
日常の中の小さな「きっかけ」から、
ご近所との何気ない「挨拶」から、
始まります。
起点は「**身近なところから**」です。

いざという時に力になるのは、
ひととひとの関係性です。
地域「コミュニティ」の活性化です。



かなざわ水害ハザードマップアプリ「にげまっし」

ワークライフバランス北陸



ご清聴、ありがとうございました。